

# 南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和8年 1月20日(火)  
学校関係者評価委員会作成

## 第一回 学校関係者評価委員会

実施日：令和8年1月20日(火) 午後1時00分～2時00分

会 場：小笠原小学校校長室

評価者：学校関係者評価委員

名取 昇 (小笠原区自治会長, 学校評議員)  
齊藤 至 (元小笠原小学校校長, 学校評議員)  
西川 寛美 (主任児童委員 学校評議員)  
藤巻 秀子 (民生委員 学校評議員)  
飯久保一男 (前小笠原小学校校長 学校評議員)  
新津 岳 (元市教育委員会教育部長 学校評議員)  
大柴 輝紀 (小笠原小学校 PTA 会長 学校評議員)  
志村 泉 (校長) 武田 幸子 (教頭)

### 内 容

- 1 学校から提案の内容
  - ①学校評価の方法について
  - ②評価の全体的な傾向について
  - ③教職員自己評価シートの内容と結果について
  - ④児童アンケートの内容と結果について
  - ⑤保護者アンケートの内容と結果について
  - ⑦まとめ…学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について
- 2 協議された主な内容
  - ①学校評価への全体評価について
  - ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について

## 《学校関係者評価書》

### ○ 学校関係者評価委員会から出された主な意見

※「①, ②, ③…, その他」: 評価項目 「・」: 評議員から出た意見 「⇒」: 学校の回答

#### 教職員自己評価について

③行事等の変更で全職員に伝わらないことがあった。

⇒教職員の勤務体系も様々で、人によっては連絡事項を書面で確認していただくこともあり、説明不足につながったことがあった。直接、話をして理解を得るようにしている。

⑤「分掌の割り振りや特定の学年に負担が集中する体制」とは？

・校務分掌が過度な負担にならないようにと考える。また勤務時間との関連や業務改善の関連も考

- えると学校全体の対応が必要と思われる。若手や教員志望者の立場からの意見を聞く必要もある。
- ・人材の減少と多様な児童に関わる関係で、先生方に余裕が感じられないと考察する。
  - ・働き方の理想像は教職員間で共有しているか？

⇒分掌については、1年間定期的に継続して行うもの スポットの取り組むものなどがある。

る。体育的な分掌は、運動会、プール、陸上記録会などの負担が多いと感じらる。音楽会など保護者に参観してもらう行事も練習期間や対外があり、負担が多い。また、取組期間に重なりもある。

見直しとして、①提案に対して理解し協力する。②複数で対応する。③準備などは全員が関わる。④課題と方向性を来年度に引き継ぐ。などを行っている。

特定の学年に負担が集中とは、どの学年にも支援が必要な子、学習が苦手な子がいる。多様な子どもたちがいる中で、支援体制を組んできたつもりだが、指導の心配な教師、人材不足などで、その支援体制のバランスが崩れていると思う。対応に追われる教師が疲弊しないように、指導力アップ、人材探し・補充を進めている。

- ・人材確保（欠員をなくす、学習ボランティアの募集と活用）
- ・チーム担任制で、連携した学年経営
- ・地域ボランティアの募集と活用
- ・新しいアイディアを取り入れる

⇒働き方の研修や話し合いで、共有している。

⑥校内研究に主体的に関わっていない教師が少し見られ残念。

⇒面談等で聞き取りをしながら、研究へ積極的に関わられるような取り組みをしている。ミニ校内研、小グループでの意見交換、OJT などを通して、「教職員は日々学び続ける存在であれ」を意識させている。

⑨読書活動について、児童の実態がどうであれ、教師が読書活動をおろそかにしていると思うのは良くない。

- ・幼いころからの読書習慣は大切であるので積極的に進めてほしい。
- ・読書の習慣が少ないように感じた。

⑪児童がめあてを達成しているか、教師が評価する設問である。Cを付けた教師に指導が必要である。

補助教員の充足はどうなっているのか？

⇒教師には、授業のめあてと到達点を児童に伝えてのぞむように指導している。指導と評価の一体化という観点からも指導をしていく。

⇒補助教員は、市単講師2名、学力向上推進員1名（過不足なし）だが、休職・療養が1名ずついることや多様な児童に対応するために日々奮闘していただいている。

⑭児童の規範意識や道徳性をはぐくむ指導に「取り組んでいない」のは問題である。

⑮児童が進んであいさつをするように指導「そう思わない」が7.7%いることも問題。

⇒取り組んでいても成果が表れないことに対してDを付けたそうである。全校であいさつについても、ルールや思いやりについても取り組んでいることなので、教師自身の認識を変え、具体的な指導方法を考えさせた。

⑰HP は定期的な更新もされ、また P7 のまとめにも今後の対応が記載され評価できる。保護者からの反応も良いようだ (⑧)

お便りやHPを通して保護者や地域に広報していますか？に対しCDが多い。

⇒学校としての情報発信でなく、個人的に関わっていないことへの評価である。

⇒HPの更新については、校長が代々その役割を引き継いでいる。個人情報保護の観点か

ら 児童の顔・個人名がはっきり見えない工夫をしたり、掲載不可の児童の配慮を行ったりしている。また、教師による児童のスマホ撮影動画等が売買される事件があり、より慎重に取り扱わなければならない。

⑱地域人材や施設の活用し、地域の教育力を生かす指導を行っているか。「地域連携」の項で、教職員の配置など課題があるのでは？

市教委文化財課の積極的な活用を。

⇒多様な児童に対応する上で、教職員の配置やボランティアの協力が必要である。

⇒人材バンクづくりや学年間の共有を図るとよい。

⇒各学年の取組や活動に地域人材や施設活用をしている。

全校で小笠原流礼法の学習、お話の会

1年：柿平公園の様子、自然探し、じどうしゃくらべ等

2年：お店探検（保護者参加）、美術館の出前授業・見学、給食センターの見学等

3年：エコパ伊奈ヶ湖学習、消防署の見学、はくばくの見学、スーパーの見学等

4年：福祉講話・福祉体験（社会福祉協議会）、太々神楽の鑑賞、防災の講話等

5年：ドローン教室、自動車工場の見学、林間学校等

6年：史跡巡り・甲斐源氏と鎌倉（文化財課）、狂言鑑賞等

これまでの小笠原小の活動を継続し、新たな人材発掘やいかに地域の方々に協力していただけるかを意識させたい。

⑲あなたは、対話を意識した学び合いを授業に取り入れていますか？全教科に学び合いを取り入れることは難しいのでは。また、自分で考える時間も大切であるから、そこを考慮した質問項目にしたらい。

⑳働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいますか？Cが23.1%いることは、手当やキャリアを踏まえ、教師一人一人の専門性や特技・特能を生かし減らしていくことを管理職から理解するように説明してほしい。

・働き方の理想像は職員で共有されているか？実感が持てるようにしてほしい。

・学校として「減らす・やめる・簡素化する」の観点で論点になっていることは何か？

PTA・地域で支援できることはないか。

⇒学校運営協議会への要望も踏まえ、学校と地域がより連携していく方策を探る。

今年度は学習面でのサポートで苦労したので、来年度は学習ボランティアを広く募集したい。

「減らす・やめる・簡素化する」の観点では、農園を完全返納した。PTA理事会の開催時刻を30分早める、新校務支援システムの導入による校務の軽減、通信表の内容の見直しなどを図ってきたい。

### 児童評価について

様々な子どもの「思い」がアンケートに現われる。一番重要なことは、マイナス評価をしている子ども達に対して、教師が個々に良く聞き取りをしてアドバイスをしていくことである。

⇒まさに、その通りである。いろいろなアンケートを実施するが、悩み・困り感をもつ児童に対し、不

安が解消されるように、教師からの声かけや聞き取り、相談やアドバイスを行うことを最優先に考えている。

③児童アンケートで「相談できる友達がいる」が大きく改善しているが、学校が手ごたえを感じている取組は何か？

⇒「SOSの出し方」について確認したり、日頃のスリンプルプログラムで対話や関わり合いを大切に集団作りをしたりしている成果であると思われる。

④「相談できる先生がいる」は微減し「わからない」が増えている。児童が相談先をイメージできるよう、具体的な相談事を踏まえてやり取り例をいくつか開示するなど、今後の方針があればお聞きしたい。

・児童アンケートで「わからない」と回答している傾向は集計済みか？質問の主旨を理解していない可能性があり、少し気になる。

⇒やり取り例は、個人情報にも関わるので控えさせていただく。先生にできない場合は、保護者から相談していただくケースもある。相談先は、学年や相談内容に応じて、担任以外にも養教やSC、特別支援COなど関わってもらっている。今後も先生だけでなく、保護者と連携しながら児童の困り感や悩み等に対応していきたい。

③あいさつが課題となっていたが、登校時の見守りをしている中で、元気にあいさつしている様子がうかがえる。

・まだ無言清掃をしているのですか？コミュニケーションが大事と思われませんが。

⇒無言清掃 楡形中学校区小中一貫教育の楡形スタンダードにある「あいさつ」「はきものそろえ」「無言清掃」「時間を守る」を継続して取り組んでいる。

#### 保護者評価について

保護者評価は傾向を見る参考資料として考えた方が良いが、マイナス評価については、保護者と一緒に改善策を考えていただくとよい。

⑬スマホルールについての評価が低下している。ペアレンタルコントロールの活用など、家庭で実効性をもたせやすい方法の検討をお願いしたい。

⇒クロムブックの活用やルールは、学校での指導だけでなく、家庭で市の「南アルプス GIGA 宣言」を使い、親子で確認済み。「使わせない」のではなく、どのように活用するかは学校でも指導して、授業で一緒に取り組んでいる。

スマホルールは、教育を語る会においても親子で学習する機会をもったが、各家庭における取組は違うので、資料も配布して啓蒙している。

⑤保護者自由記述欄「学級の人間関係が不安」は学級崩壊やいじめ等の事案になりかねないので不安。

⇒その通りである。児童が「楽しく学習する、安全に生活する」ためには、学級経営が土台となっている。もっとも学校に期待されることだと認識し、教職員の指導力向上と組織的な対応に励んでいる。また、保護者の方々の理解と協力を得ながら、児童の関係づくりを進めている。